

第 12 回 AAAP Congress の報告

第 12 回 AAAP 大会が 2006 年 9 月 18 日(月)から 9 月 22 日(金)まで、韓国、釜山の BEXCO で韓国畜産学会をホスト学会として開催された。参加国は 17 カ国で、参加者は 1250 名余であった。そのうち、日本からの参加者は 179 名で、数多くの発表を行うとともに、座長の役を務める参加者もあった。また、本学会が推薦した 6 名が招待講演者として Concurrent session の Leader speaker を務め、主催者側から招待された日本人講演者も数名いらした。

18 日は朝 7 時 30 分から Registration が始まり、10 時から Opening ceremony、10 時 30 分から Keynote speech が行われた。Opening ceremony では、6th AAAP Animal Science Award と 2006 AJAS Purina Outstanding Research Award の授賞式があり、前者は本学会の佐藤英明副理事長(写真 1)、後者は中国の Dr. Junyou Li と韓国の Dr. InHo Hwang が受賞された。Keynote speech では畜産草地研究所の柴田正貴所長が「Direction of the livestock production research in the next decade Japanese basic plan as an example」の課題で講演された。18 時からは Welcome reception と Opening dinner が催された(写真 2)。18 日午後から 22 日の昼までは研究発表とポスター発表が行われたが、演題は Plenary session 8 題、Concurrent session 224 題、Satellite symposium 52 題、Poster session 983 題あった。19 日には日本繁殖生物学会と(独)畜産草地研究所が主催したサテライトシンポジウム(JSAS-KSAR joint seminar 2006, International Symposium on Production & Utilization of Whole Crop Rice)が開催された。

韓国は AAAP の事務局長と AJAS の編集委員長を輩出する AAAP の中心メンバー国であることから、前回の Congress の 3 倍程の参加者があり、学生の参加、協賛企業も多く盛会であった。21 日は 18 時 30 分から Paradise Hotel で Farewell dinner が催され、各国それぞれのお国自慢と歌などが披露され、日本からは前回に引き続いて畜産草地研究所のバンドが演奏を行い、本 Dinner を盛り上げた。

最終日の 22 日は 14 時から Closing ceremony と Best presentation 賞 17 名(口頭発表 6 名、ポスター発表 11 名)の授賞式が行われた。日本からは、中村哲士会員(北海道大学)が口頭発表部門で、山中賢一会員(東北大学)、杉野利久会員(広島大学)がポスター発表部門で受賞された。

9 月 21 日 15 時から第 14 回 AAAP Council Meeting が開かれた。17 カ国の加盟国のうち、パキスタンを除く 16 カ国の代表が出席し、日本畜産学会からは泉水直人理事長、坂田亮一常務理事(編集担当)、小澤壯行常務理事(会計担当)、吉澤史昭常務理事(庶務担当)の 4 名が出席した。AAAP 会長の InKee Paik 教授が議長となって議事が進められ、主な報告および審議内容は以下の通りであった。

1. 前回議事録(Kuala Lumpur, Malaysia, September 8, 2004)の確認
2. 会務報告(AAAP 会長: Prof. InKee Paik)
3. 会計報告(AAAP 事務局長: Prof. Jong K. Ha)

4. AAAP メンバーシップについて

これまで、中国畜産獣医学会が AAAP に加盟していなかったため、加盟を呼びかける活動をしてきたが、台湾との関係上これまで加盟に至らなかった。今回、中国畜産獣医学会から正式な申請があり、Council Meeting で加盟を承認した。また、スリランカ畜産学会 (SRI LANKA ASSOCIATION OF ANIMAL PRODUCTION (SLAAP)) から加盟申請があり、これを承認した。

5. 加盟学会の活動報告 (各国代表)

日本畜産学会の活動の状況を報告するとともに ASJ が ISI 社のデータベースに掲載され 2009 年にはインパクトファクター値が発表されることを紹介し、ASJ のパンフレットを各国代表に配布して投稿を呼びかけた。

6. Asian Australasian Journal of Animal Science (AJAS) の刊行状況について

Prof. Jong K. Ha より、AJAS の刊行状況が報告され、加盟各国に投稿の呼びかけがあった。

7. 第 13 回、第 14 回 AAAP Congress の開催について

2008 年開催予定の第 13 回大会はベトナムのハノイで開催することを決定した。また、2010 の第 14 回大会については、前回の Council Meeting でニュージーランドが開催の意向を表明していたが、その後、新たにタイと台湾が立候補を表明した。複数の国が立候補したために Council Meeting で候補地を絞ることができず、本会議の後に候補地決定のための小委員会を開き審議した結果、台湾を候補地として決定した。

8. AAAP 事務局長の選出

Prof. Jong K. Ha が選出され、引き続き AAAP 事務局長を務めることとなった。

9. AJSA 編集委員長の選出

Prof. Jong K. Ha が選出され、引き続き AJSA 編集委員長を務めることとなった。

(泉水直人，坂田亮一，小澤壯行，吉澤史昭)



写真1 佐藤英明副理事長と受賞メダル



写真2 初日のレセプション.
Paik 大会会長らの主賓卓